

エゾシカ保護管理検討会（H24.7.26）の開催結果について

1 平成 23（2011）年度エゾシカ個体数指数について

* 個体数指数：各種調査から得られた結果について、基準年の値を 100 として基準化し、毎年の生息動向を相対値で表したものの。

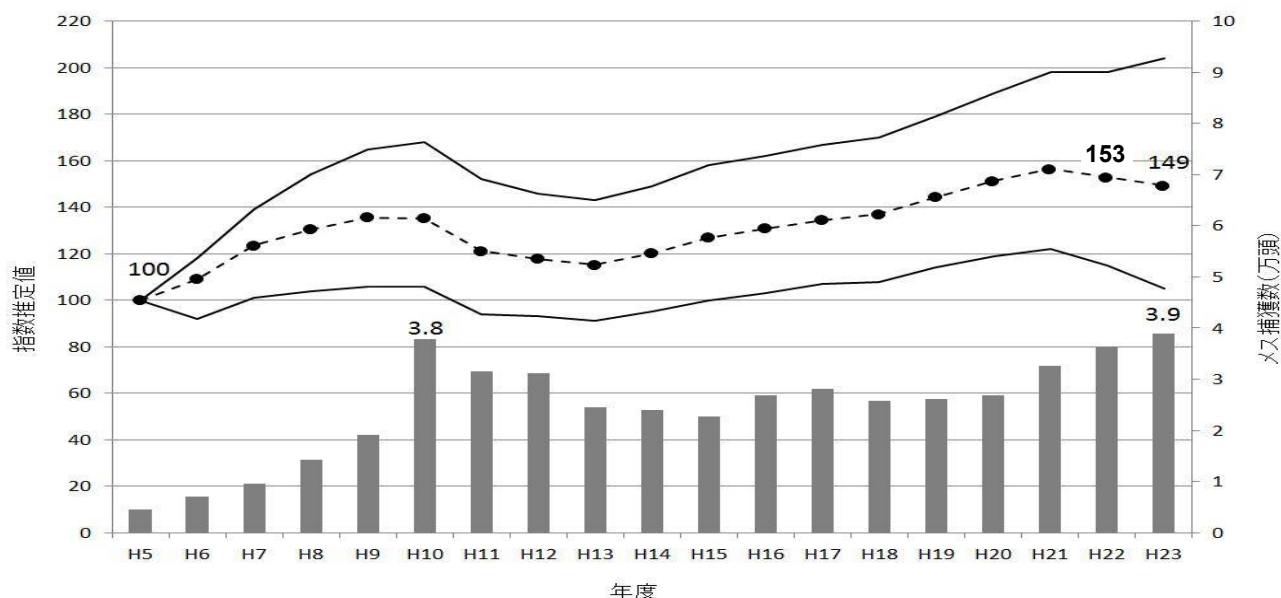
(1) 東部地域（オホーツク、十勝、釧路、根室総合振興局・振興局管内）

149 ± 50（95% 区間）

【平成 23 年 10 月（狩猟期前）時点、平成 5（1993）年度を 100 とした指数】

- 平成 22 年度は最新データの解析によって、153 ± 40（95% 区間）と修正された。
- 東部地域については、平成 14（2002）年頃から増加に転じ、平成 21 年度には過去最高の個体数に達したが、その後増加を食い止めたか、あるいは減少に転じた可能性が高い。
- 1 年当りの増加率を 21% と仮定すると、平成 22 年度は新たな解析によって、23 万頭から 44 万頭の間であり（95% 区間）、平成 23 年度の生息頭数は 20 万頭から 45 万頭の間にあると推定される（95% 区間）。

個体数指数のベイズ推定値（東部・シカ柵考慮・各年度狩猟期前）



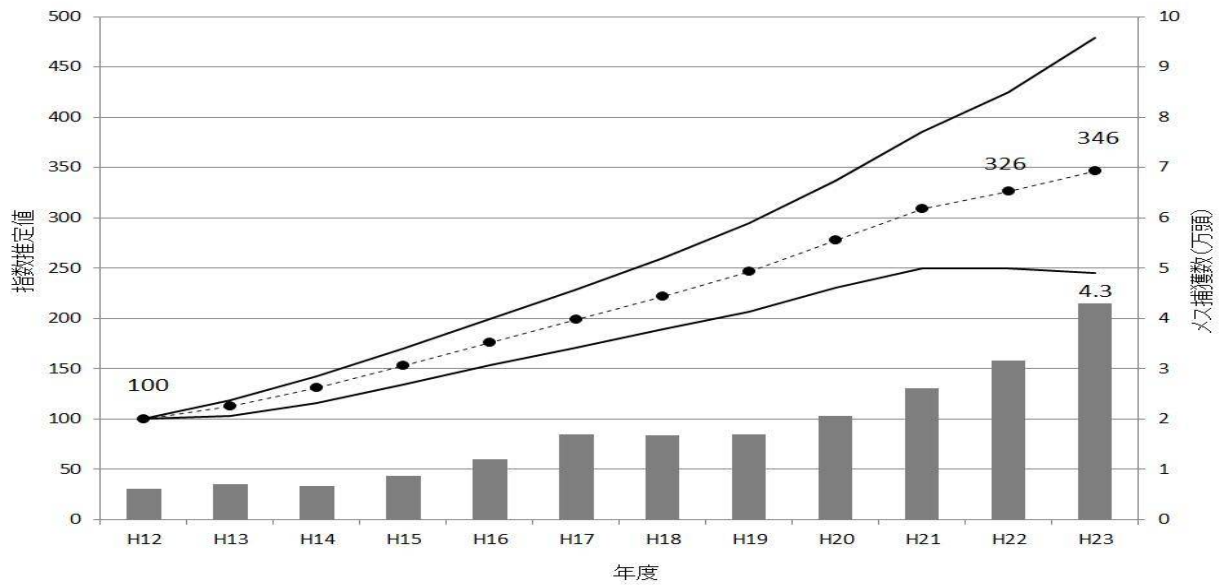
(2) 西部地域（石狩、空知、上川、留萌、宗谷、胆振、日高総合振興局・振興局管内）

346 ± 100（95% 区間）

【平成 23 年 10 月（狩猟期前）時点、平成 12（2000）年度を 100 とした暫定値】

- 平成 22 年度は、最新データの解析によって、326 ± 100（95% 区間）と修正された。
- 西部地域の個体数指数は、増加に鈍化の兆しがあるが、依然として増加の傾向が続いている。
- 西部地域は既に全体として東部地域と同じレベルかそれ以上の個体数に達しており、増加を食い止めるためには、東部地域以上のメスシカ捕獲頭数が必要である。

個体数指数のベイズ推定値（西部・各年度狩猟期前）



(3) 南部地域（渡島、檜山、後志総合振興局・振興局管内）

- 南部地域については調査年が少なく、指数を算定するには情報が足りない。しかし、分布が拡大し局地的に高密度の地域が観察されている。また、努力量当たりの捕獲数及び目撃数や列車支障件数が増加しており、一層の捕獲圧をかけることが必要である。